

楽

ひびき

すべては
子供たちの
笑顔のために

〒384-0006
小諸市与良町6-5-5
Tel.0267-31-0251
Fax.0267-31-0140



バックナンバーはこちらから

東信教育事務所

令和5年
(2023年) 11/16



Vol. 5

実りの秋

● “授業から学ぶ”

- ・楽しく、身に付く保健の授業を目指して
- ・多様な考え方に触れる道徳科の授業を目指して
- ・子供が主体的に追究する授業を目指して

● “研修の窓”

- ・テストづくりは授業づくり
～中学校国語科テストづくり研修会～

● “考える部屋”

- ・即興で伝え合う力を育成するには
- ・子供の発達や学びをつなぐ園・小接続を目指して

● “生涯学習課より”

- ・子どもにも地域住民にも楽しい場に



授業から学ぶ
(小4・体育)
保健領域
「体の発育・発達」



楽しく、身に付く保健の授業を目指して

運動領域と同じように保健領域の授業でも、子供が授業を楽しいと感じながら、資質・能力を身に付けられるように授業を構想した、A小学校の実践を紹介します。

体育（保健）単元名：「体の成長とわたし」

終末場面（学んだことを振り返り、それを基に思春期を迎える自分や友達へのメッセージを考える）

今日は色々分かって、楽しかった。少し恥ずかしかったけど、思ったより恥ずかしくなかった。ヒゲが生えるとか、今は気にしてないけれど、いつか気にするかもしれない。だけど、変化を楽しんでいこう。



思春期って言葉は知ってたけど、今日の授業で意味もわかった。よく考えてみたら体の変化はたくさんあった。



私もお父さんたちのようにこれから体に変化があるけど、個人差があるから、心配しないでいたい。



このような子供たちの「保健の授業が楽しいと感じる姿」や「学んだ知識と自分や身近な人の具体的な体の変化を関連付けて深く理解していく姿」、「学んだ知識を基にこれからより良い生活を送ることにつながる姿」の背景には、A小学校のどんな工夫があったのでしょうか。

A小学校のB先生は校内の先生方と昨年度までの授業を振り返り、子供達が健康等に関する様々な課題に関心を持ち、主体的に健康な生活を実現しようとする姿を願い、3つの視点から保健の授業改善を考え、校内で共通理解を図りました。

A小学校

運動領域と同じように、「楽しいな」と感じたり興味をもって学んだりできるといいな。将来につながる知識にしたいな。

雨の日に授業するなど、意図的・計画的にできていなかったかな。保健で大切にすることや、内容についても、もう一度確認してみた方がいいね。



B先生

保健の授業は、個人に配慮することも考えると、どうしても知識を伝えるだけの授業になっていたかな。

1 保健領域全般についての視点

- ①「生きる力」を育む小学校保健教育の手引等で内容の体系や系統性を確認し、身近な生活における内容をより実践的に理解できるようにする。
- ②心身の発育・発達段階等の特性を踏まえる。
- ③学校内で共通理解を図る。（集団指導と個別指導等）

2 「主体的・対話的で深い学び」の視点

- ①「知りたい」「知ってるけどなぜ？」を引き出す導入の工夫。
- ②見通しをもてたり、多様な気付きを引き出したりする資料。
- ③学んだ知識と、自分や身近な人の体の変化を関連付けて考えることができる活動の工夫。

3 「指導と評価の一体化」の視点

- ①「何を」「いつ」「どのように」の計画を作成する。
- ②授業中の子供の姿を具体的に思い描く。
- ③評価方法を工夫することで、学習状況を把握し指導改善、学習改善につなげる。

そして、授業では以下のような具体的な手立てを講じました。

導入場面

具体的な手立て

- 小学校1年生と大人のシルエットクイズや6年生の写真を提示し比較する。
 - 身近な生活の内容に近付け、「なぜ?」「もっと知りたい」を引き出す。
 - 身近な人の体の変化から、自分や身近な人の具体的な体の変化と関連付けられるようにすることで、「なぜ?」「もっと知りたい」を引き出す。



思春期はいつ頃から始まるのかな?

あれあれ~おかしい~。6年生で体つきが変わっている。予想の中学生じゃないぞ。

俺ももう始まっているかもしれないな。

どちらが男の子でどちらが女の子かな?。

〇〇ちゃんは背が高かったから、女の子だと思うな。

私、思春期って知ってるよ。

B先生

展開場面

具体的な手立て

- 班で思春期の体の変化について考えていく手がかりとして、実際に先生方にインタビューをしたり、その内容を基にした資料を準備したりする。
 - 身近な生活の内容に近付けたり、「もっと知りたい」を引き出したりする。
 - 考えていく際の見通しとなったり、多様な気付きを引き出す。
 - 身近な人の体の変化を基にして、自分や身近な人の体の変化を具体的に関連付けられるようにすることで、理解を深める。



実際に校長先生に聞いてみようか?

ヒゲが生えたんだ。やっぱりあるんだ。僕も足に毛が生えてきて、少し嫌だった。

他にも体の変化あるかな?他の先生にインタビューした資料も使って調べてみようか。

女の子は知らなかったけど、調べたら体の変化が分かった。

兄弟のケンカが少なくなったのも変化なのかな。

校長先生

そういえば、お父さんも毛が生えてるな~。

先生によって、時期も違うし、感じ方も違うんだな。前回授業でやった個人差ってことだ。

もう少ししたら、私も体に変化が出てきそうかな。

本でも調べてみたら、生理が始まるって書いてあったよ。

A小学校の組織的で計画的な授業改善の取組やB先生の子供の実態に応じた具体的な手立ての工夫によって、子供たちが自ら求めて追究し、友達と考え、今後の生活で生きる知識を習得していくことにつながりました。



授業から学ぶ

特別の教科 道徳
中学校・全学年
「アイツとオレ」



多様な考え方に触れる道徳科の授業を目指して ～自己を見つめ、生き方について深く考える～

小規模校で小さい頃から同じ友人関係で過ごしているため、多様な考えに触れる機会が少ないと感じていたA中学校では、道徳科の授業を全校で行い、多様な考え方に触れることに取り組んでいます。



「そうするといいいことは分かっているだろうけれど、できないかもしれない」など、多様な考え方にふれて、自分の生き方について考えてほしいな。

○教材「アイツとオレ」（中学道徳3 きみがいちばんひかるとき光村図書） 内容項目：相互理解 寛容
「オレ」は、同じクラスの「アイツ」に対して対抗心を燃やしている。成績・運動・友達の数・どっちが目立っているか...そんなことを比べては、「アイツ」の余裕と大人っぽさに腹が立っていた。「オレ」は1人の子に対して無視したり、嫌がらせをしている。ある日「アイツ」が声をかけてきた。
アイツ「嫌いなものは仕方ないが、複数で無視するなよ。」
オレ「それはオレのせいじゃなくて、オレって人気があるからみんなが勝手についてくる。オレのこと妬んでるんだろ？」
アイツ「君についてくる人は、自分がいじめられたくないからじゃない？誰かに嫌がらせをする奴って、憧れの対象になる？」
「オレ」は言葉が出なかった。「オレ」はこれからどうすればいいのだろう...



あなたが「オレ」の立場だったら、この後どうしますか？

中2 Bさん



尊敬してもらえるような行動をすることで、みんながついてきてくれるようになりたいな。みんなはどう考えているんだろう。

先輩 どうすればいいかわからないな...

考える？

今までのことを反省する

悪いとは思っているけど...

対抗心をもち続ける

嫌がらせしていた彼に謝る

イラっとしちゃうな



友達の意見を聞いてどう？本当にできそう？

Bさん



う…。反省はするけれど、すぐに行動はできないかもしれないな

なんでそう考えたのか、もう少し教えてくれる？

悪いことをしてたのはわかるけど、ライバルの「アイツ」に言われたから、すぐにあやまれないかもしれない。

話し合いで「尊敬してもらえるような行動をしたい」と語っていたBさん。後輩の前だということ意識してのかもしれませんが。しかし先輩の「どうすればいいかわからない」と葛藤する発言から、実現できない人間の弱さや、考え方が多様であると理解を深めていました。どのような多面的・多角的な見方や考え方をしていくことが道徳科の目標である「道徳性を養う」ことにつながるかを考え、指導に生かしていきましょう。



授業から学ぶ

(小5・算数)
「面積」



子供が主体的に追究する授業を目指して ～「学びたい内容が子供の側にある」～

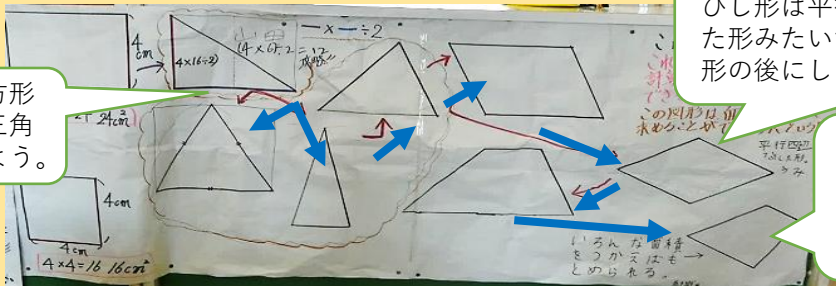
学びたい内容を教師から与えるのではなく、子供が「やりたい」「考えてみたい」と主体的に追究する授業に向けて、教師はどのようなことを考えて構想していけばよいのでしょうか。A小学校の実践から考えてみましょう。



「子供が課題設定し、主体的な追究をする授業」を目指すとしたら、今まで通りのように、解決の方向性を教師が統一しては、子供の資質・能力を育むのは難しそうだな。子供が自分なりの「見方・考え方」を働かせて、自分一人で追究したり、友達と共に追究したりする授業を目指したいな。

B先生の挑戦

子供と共に単元のゴールの設定と学習計画（求積の場面で、どんな図形をどんな順番で解決していくか）を考える時間を、単元の最初に位置付ける。



正方形や長方形に近い直角三角形から求めよう。

ひし形は平行四辺形をつぶした形みたいだから、平行四辺形の後にしよう。

(単元のゴールの図形に対し) いろんな面積を使えば求められる。

B先生の挑戦

子供が単に「面積を求められる」だけでなく、「図形を構成する要素に着目して、面積の求め方を統合的にみること」を願い、単元の中で子供が働かせる「**数学的な見方・考え方**」を明らかにしたり、位置付け・価値付けていく。



今日は台形をやっつけるぞ。

どんな「攻略のための技」を使おうと思ってるの？

囲んで長方形を作る 合同な図形を作る



やったー。後はラストボスだ。

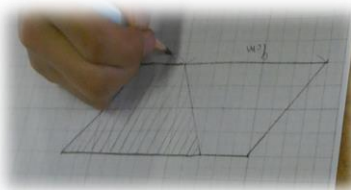


切って移動（面積の求められる形に変形）させる

対角線で三角形を作る

……（しばらく見つめた後）どうしてこの方法がいいと思ったの？

ノートに書いておいてね。



机の台形（台形の形をした配膳台）が2つ並んで平行四辺形になるなと思ったから。



この単元の学習の「見通し」が共通理解されているので、これまでの「攻略のための技（数学的な見方・考え方）を使えばできる」という解決の「見通し」が立っている子供の姿がありました。「数学的な見方・考え方」に着目して授業が展開されていくので、子供自身が、自分の「見方・考え方」の成長を実感しています。また、B先生は子供が働かせている「見方・考え方」を捉えることができるように教師自身が教材研究を重ね、子供の「見方・考え方」を板書に位置付け、よさを共有できるように働きかける姿がありました。

単元のゴールや、働かせる「見方・考え方」の見通しが立つことで、子供たちは主体的に取り組む姿が生まれます。教師が「正解」のみに着目するのではなく、子供が学びの中で働かせている「見方・考え方」に着目して、子供を励まし、位置付けや価値付けをしていきましょう。



テストづくりは授業づくり

～ 中学校国語科テストづくり研修会（8月18日）～

研修の窓

授業内容とテストを関連させたいと考えていても、実際にテスト問題にしようとするとなかなか難しいものです。各校のテストを見合ったり実際に問題をつくったりしながら、テストや単元展開の在り方について考えました。

〈参加したN先生にインタビュー〉

Q. 参加しようと思ったきっかけは

授業では多様な考えを大切にしていますが、テストになると答えを限定しなければなりません。日々の授業がテストと直結しないことに難しさを感じていたので、参加しました。

Q. 参加してみて印象に残っていることや学んだことは

生徒がどう考えたかを評価することが大切だとわかりました。学習指導要領の系統表で、下の学年の内容を参考に難易度を調整するという考え方が自分にはなかったので、授業の手立てや学習内容の段階を考える際に有効活用していきたいです。

自作の問題を作る楽しさも感じました。同じ教科の先生と解き合ったり授業とのつながりを考えたりしながら、実践を進めていきたいです。

Q. 作った問題を実際に使ってみて、生徒の反応は

自作の問題を単元の後半で使ってみました。生徒も「面白い！こういうテストがいい！」と話していました。

授業で学習した内容を使って解ける問題にしたことで、生徒は、学習したことを意識して活用しながら問題に取り組んでいました。

〈校長先生にインタビュー〉

Q. 研修の後、N先生の取組の様子を教えてください

早速、次のテストで教科書以外の文章を使用した問題を入れてみたいと話していました。授業で生徒にどのような資質・能力を育てるのが意識することで、授業改善にもつながっているようです。他の教科でも資質・能力と評価を意識した授業づくりをスタートするきっかけとして期待しています。

指導主事とつながりができたので、今後もどんどん相談して行ってほしいですね。

参加した先生方の感想には、「今後は指導事項を基に『子どもたちにどんな力をつけたいか』を考えた授業づくりと『つけたい力が身についたかを確認する』ためのテストづくりをしていきたい」という言葉がありました。

まさに、テストづくりは授業づくりですね。国語以外の教科でも、テストづくりについてお気軽にご相談ください。一緒に考えていきましょう。

研修の内容

- ・ 研修Ⅰ
各校のテストを基にねらいや内容の情報交換
- ・ 研修Ⅱ
長野県公立高等学校入学者選抜後期選抜学力検査問題や全国学力・学習状況調査問題等から考えるテストづくり
(ア) テスト作成の悩みの共有
(イ) 学習評価の目的と内容の確認
(ウ) 長野県の学力検査問題や全国学調の出題の趣旨と、学習指導要領との対応を系統表を用いて確認
- ・ 研修Ⅲ
テストづくり演習
- ・ 研修Ⅳ
テストから考える授業づくり





即興で伝え合う力を育成するには (中学校・外国語)

～A中学校の言語活動の取組から考える～

4年ぶりに全国学力・学習状況調査で英語が実施されました。「話すこと」の全国平均正答率は12.4%でした。全国より上回ったA中学校の取組から即興で伝え合う指導についてB先生と共に考えます。

「即興で伝え合う」とは、話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく、不適切な間を置かず相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合うこと。

中学校学習指導要領解説 外国語編 1目標 (2)話すこと [やり取り] ア

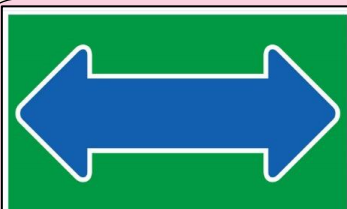
やり取りを行う際には、**言語材料を示しません**。話す内容も表現も子どもたちが考える。突拍子もない表現が出てくるのが、むしろとっても楽しいんです。



B先生



目的・場面・状況等の設定を工夫しています。この単元は、地域の一人として防災に取り組む意識をもつことが題材です。「日本に来たばかりの日本語が分からない外国人」と相手意識を明確にすることで、英語を話す必然性(目的意識)が生まれると考えました。教科で足並みを揃えて同じUnit Goal、同じ場面設定で授業を進めています。



ここに物を置かないで下さい

ペアで、この標識を即興で英語で説明し合うという言語活動を行いました。1回目のやり取り、「It means…」生徒たちはほとんど話すことができません。でも、その**話せなさを感じる**ことが大切だと思うんです。これでは日本語が分からない外国人に伝えられないと悔しがる生徒もいました。相手意識が働いている姿でした。



Cさん

生徒が言語活動に取り組んだ後、必ず**中間指導**の時間をとって、困り感や見えそうな表現を共有しています。この時Cさんが「You mustn't put things here.」って言ったのをALTが捉えていてくれたんです。すかさず、Cさんなんて言ったの?と全体で共有しました。生徒たちは「お～!」「なるほど!」という反応をしていました。似たような表現「Don't」も見えそうだねと考えを共有し、2回目の言語活動に移ると、ほとんどの生徒は想起した既習表現を使ってやり取りをしていました。**やり取りを一度だけで終わらせず**、中間指導を間にはさみながら何度もやり取りを繰り返す機会を設けることで、生徒は徐々に自分の英語に自信をもち、伝える内容と伝え方を自分で考えられるようになってきました。

B先生から、即興で伝え合う力を育成するヒントをいただきました。A中学校の生徒たちは、英語でコミュニケーションを行う意義や楽しさを感じています。彼らの伝えたいという思いや自由な発想を大切に、先生方も一緒にコミュニケーションを楽しみましょう。



考える 部屋

子供の発達や学びをつなぐ園・小接続を目指して ～幼児期の育ちを小学校の学びにつなげるには…～

園での子供の育ちを切れ目なく、小学校の学びへとつなげていくにはどうすればよいのでしょうか。A保育園とB小学校の取組から考えてみましょう。



小学校入学後の子供たちに対して、次のようなことはありませんか？

- 「基本的な生活習慣を身に付けさせよう」とするあまり、画一的な指導により、教師の指示で動く場面がつつい多くなっている。
- 「何も知らない、何もできない子供たちだから、イチから学校生活に必要な学習や生活の基本を教えなくては」と、思い込んでいることがある。



「小学校から新たに学びがスタートする」と思ってしまうがちですが…
学びは小学校から始まるわけではありません。子供の発達や学びは連続しており、
幼児期の育ちを小学校の学びに円滑につなげていく必要があります。



どのように、幼児期の育ちを小学校の学びへとつなげていけばよいのでしょうか？

園での子供たちの育ちを小学校での学びにつなげていきたいと考えた
A保育園とB小学校。円滑な園・小接続に向けた取組を紹介します。



★ 育てたい子供の姿の共有

A保育園とB小学校の先生方は、お互いの園や小学校の子供たちの様子の参観を通して、園・小で共に
どのような子供を育てたいか、話し合う場をもち、共有しました。



【A保育園】

夢中になって
遊びこむことで、
心も体も
たくましく
成長する子供



【園・小共通】
学び（遊び）
への意欲を
大切にしよう！



【B小学校】

- 挑戦してみたいことを、自分の言葉や態度で伝えられる子供
- 試行錯誤し、自分で活動をよりよくしようと
する子供



子供たちの育ちを「10の姿」でつなぐ

A保育園、B小学校の先生方は、園・小で大切にしたい
子供の姿に向けて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい
姿」（いわゆる「10の姿」：次ページ参照）の視点で園児や
1、2年生の児童の育ちをみています。その視点を手掛かり
に、保育・授業参観を通して学び合ったり、子供がもって
いる力を思う存分に発揮できる場を工夫したりしていました。



小学校の先生

【学びへの意欲を大切にするために…】

- ・子供の「やりたい」を引き出す工夫
- ・環境づくり（〇〇コーナーなど）
- ・共感、寄り添う、見守るなどの大人のかかわり
- ・自己選択 自己決定 自己表現できる場の確保

♪ 小学校の授業づくりに生かせそうだ！

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」とは、どのような姿なの？
- 園小接続は、どう進めていけばいいの？何から始めればいいの？

長野県教育委員会内に事務局がある「信州幼児教育支援センター」のホーム
ページには、様々な研修案内や研修動画・各種資料等が掲載されています。

信州幼児教育支援センター ⇒



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）



幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。



友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。



友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。



家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。



身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。



自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。



遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。



先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。



心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

子どもにも地域住民にも楽しい場に ～ボランティアルームでの取組事例～

校内にボランティアルームを設置し、ボランティアの控室や子どもと地域住民が交流する場、地域住民同士が情報交換する場として活用する取組があります。ある小学校では、コロナ禍で止まっていた、20分間の休み時間に子どもと地域住民の交流する活動（以下ふれあい広場）が再開しました。

子どもとかかわるときのポイントをボランティアで確認

再開してまだ数回のため、ふれあい広場の準備を始めるときに、コーディネーターとボランティアで、活動時に気をつけることを確認しました。「危険な行為、目に余る行為はその場で声をかけて止めてもらいたい。喧嘩は見守りながら、子ども同士で解決する方向で見守りましょう」の話からは、子どもが自ら育つことを待とうとする地域住民の温かな姿勢を感じました。

ボランティア活動でこんなことを気をつけましょう

- 1 心のこもったあいさつをしましょう
- 2 どんな子どもさんにも、いいところ
- 3 持ち物は、「名札」「上履き」「明るい笑顔」
- 4 学校には秘密の情報がいっぱい
- 5 なんでも話しましょう
- 6 活動は、長い目で見て楽しみましょう
- 7 感染予防

(ボランティアへの配布資料より)

室内、体育館、校庭 いろいろな場で交流



室内では、あやとり、将棋、トランプ



体育館では、ボール遊び

ふれあい広場終了後のお茶会もボランティアの楽しみの一つ

だんだん顔を覚えてもらって、子どもが寄ってきてくれることが多くなってきました。今日は「この前来たよね」と私の顔を見に来てくれたから、他のところへ遊びにいく子どもがいました。名前を憶えてくれていて嬉しいです。



体が動くうちは、運動をやるつもりです。まだまだ20分間の休み時間は動けます。普段から運動しているから、子どもと動くことを自分が楽しんでます。

校長先生や教頭先生とお話できたり、地域の人と仲良くなったことが嬉しいです。家にいたら何もできません。

<教頭先生の話>

地域の人に来ていただいて、ただ見てもらう、一緒に何かをして過ごしてもらうだけで、子どもたちの安心感、満たされた感があります。誰かのためにと考えるとうまくいかなくなります。子どもたちは来てもらえるとうれしいし、来てくださる方も来たら楽しくて、学校も助かるという、みんなにとってよい活動にできるとよいのかな。



教頭先生も参加したお茶会では、子どもの姿や地域住民の思いなどが話されていました。「ボランティアルームが地域の人のお茶飲み場になって、地域の人がいるところに、子どもが遊びに来て一緒に遊ぶような場所になれば」という今後の願いも出されました。学校を地域住民が気軽に来られる場にすることで、地域住民同士のつながりが広がったり、ボランティアにかかわる人が広がったりすることが期待されます。